



凜として

長江プライド「当たり前のことを当たり前」

令和6年7月23日(火) 第3号(特別号)



年齢を重ねても人を思いやる気持ちを忘れず、気品高く生きた人



WA

生徒の皆さん、年度の3分の1が終わろうとしています、この1学期いかがだったでしょうか。納得できる学期でしたか。今年度は長江中学校最後一年ということで、私自身いつもの年とは違った思いの中で日々過ごしています。「**三つのWA**」(人の輪、心の和、感動のわっ),「**地域貢献**」をキーワードに取組を進め、3月には学校・家庭・地域の誰もが笑顔で有終の美を飾られることを夢んでいます。残り2・3学期も皆さんの積極的なご支援をお願いします。そのためには今学期、「**自分自身**」について、「**他者との関わり**」について、「**地域との関わり**」についてどうであったかを「**団結**」「**つなげる思いやり**」を視点に振り返ってみましょう。その改善点を今後の学校生活に活かし、行動につなげてほしいと思います。みんなの気持ちが一つになって三つのWAの具現化(1学期はSAFプログラム、体育大会、部活動の大会等)が積み重ねられていったとき、忘れがたい記憶として心に刻まれていきます。

長江中学校という名前はなくなっても、共に頑張った日々の記憶はなくなることがないと信じています。残りの日々を有意義に過ごしていきましょう。

「時を越えた美しさの秘密」

魅力的な唇であるためには、**美しい言葉を使いなさい。**
愛らしい瞳であるためには、**他人の美点を探しなさい。**

〈中略〉

物は壊れれば復元できませんが、人は転べば立ち上がり、失敗すればやり直し、挫折すれば再起し、間違えれば矯正し、何度でも再出発することができます。

誰も決して見捨ててはいけません。

人生に迷い、助けて欲しいとき、いつもあなたの手のちょっと先に助けてくれる手がさしのべられていることを、忘れないで下さい。

年をとると、人は自分にふたつの手があることに気づきます。

ひとつの手は、**自分自身を助けるため、**
もうひとつの手は**他者を助けるために。**

サム・レヴィンソン

この詩の原文は、アメリカの詩人サム・レヴィンソンが孫娘の誕生に贈った手紙であり、彼の詩集『時の試練を経た人生の知恵』に収録されていたものです。

そこで、その一助になればと思い、**毎年恒例**ですが、私の好きなオードリー・ヘプバーンが亡くなる年の最後のクリスマス・イヴに、2人の息子、ショーンとルカに読み聞かせたという詩を紹介します。私がこの詩に出会ったのは20年以上も前ですが、この詩と彼女の生き方に触れ、「**人としてどう生きるべきか**」また「**人はどう在るべきか**」など、深く考えさせられたことが今でも思い出されます。

人は年齢を重ねるほど表に内面が現れます。晩年のオードリー・ヘプバーンがまさにそのことを私に教えてくれました。詩の最後には“**人の本当の美しさは、その人の精神に反映されるものなのであり、それは心のこもった思いやりの気持ちであり、時として見せる情熱であり、その美しさは年を追うごとに磨かれていくもの**”と書かれていました。

本校の学校教育目標である「凜とした『元氣・感動・温もり』のある生徒の育成」や皆さんの「夢や志」、「輪、思いやり」の実現を目指していく上で、息子達に読み聞かせたこの詩などから見いだせる彼女のものの見方・考え方は大いに参考になると考えた次第です。皆さんのこれからの人生において何かの参考になれば幸いです。(※ 0.ヘプバーンを「探究」してみては!)

「私たちには**生まれたときから愛する力が備わっている**。それでも筋肉と同じで、**その力は鍛えなければ衰えていってしまうの…**」(0.ヘップバーン)

〈オードリー・ヘプバーン〉1929-1993

○ アカデミー賞、トニー賞、エミー賞、グラミー賞のすべてを受賞したイギリス女優です。

※映画「ローマの休日」等、多数有名。

○ 1987年にユニセフ親善特別大使に就任しました。最初の訪問地は、飢餓に苦しむエチオピア北部です。

それ以来、1992年秋のソマリアまで30数カ国を訪問しました。

※ユニセフ(UNICEF、国際連合児童基金)は、世界中の子どもたちの生命と成長を守るために様々な活動をしている国連の機関。

○ 1993年にガンで亡くなる直前まで、ユニセフの活動で奔走し、飢えに苦しむ子どもたちに見せた笑顔は、神々しかったと評されています。

○ 晩年のオードリーは「**たしかに私の顔にしわも増えました。ただ、それは私が多くの愛を知ったということなのです。だから、私は今の私の顔のほうが好きです**」と語っています。



時を越えた美しさの秘密

魅力的な唇であるためには、美しい言葉を使いなさい。
愛らしい瞳であるためには、他人の美点を探しなさい。
スリムな体であるためには、飢えた人々と食べ物を分かち合いなさい。
豊かな髪であるためには、一日に一度子供の指で梳(す)いてもらいなさい。
美しい身のこなしのためには、決してひとりで歩むことがないと知ることです。

物は壊れれば復元できませんが、人は転べば立ち上がり、
失敗すればやり直し、挫折すれば再起し、間違えれば矯正し、
何度でも再出発することができます。
誰も決して見捨ててはいけません。

人生に迷い、助けて欲しいとき、いつもあなたの手のちょっと先に助けてくれる
手がさしのべられていることを、忘れないで下さい。
年をとると、人は自分にふたつの手があることに気づきます。
ひとつの手は、自分自身を助けるため、
もうひとつの手は他者を助けるために。

(オードリーが息子たちに読み聞かせた部分の訳文は以上ですが、詩はさらに続いているので、その部分の訳文も掲載します。)

女性の美しさは 身にまとう服にあるのではなく、
その容姿でもなく、髪を梳くしぐさにあるのではありません。

女性の美しさは、その人の瞳の奥にあるはずです。
そこは心の入り口であり、愛情のやどる場所でもあるからです。

女性の美しさは、顔のほくろなどに影響されるものではなく、
その本当の美しさは その人の精神に反映されるものなのです。
それは心のこもった思いやりの気持ちであり、時として見せる情熱であり、
その美しさは、年を追うごとに磨かれていくものなのです。

サム・レヴィンソン

"Time Tested Beauty Tips"

For attractive lips, speak words of kindness.
For lovely eyes, seek out the good in people.
For a slim figure, share your food with the hungry.
For beautiful hair, let a child run his fingers through it once a day.
For poise, walk with the knowledge you'll never walk alone ...

People, even more than things, have to be restored, renewed, revived,
reclaimed and redeemed and redeemed ...
Never throw out anybody.

Remember, if you ever need a helping hand,
you'll find one at the end of your arm.
As you grow older you will discover that you have two hands.
One for helping yourself, the other for helping others.

The beauty of a woman is not in the clothes she wears,
the figure that she carries, or the way she combs her hair.

The beauty of a woman must be seen from in her eyes,
because that is the doorway to her heart, the place where love resides.

The beauty of a woman is not in a facial mole,
but true beauty in a woman is reflected in her soul.
It is the caring that she lovingly gives, the passion that she shows,
and the beauty of a woman with passing years only grows!

Sam Levinson

この詩の訳文（訳文は訳者によって若干表現が違います。これはその一つです）と英語の原文も紹介しておきます。自分自身で訳してみるのもよいのでは・・・。